

テニスのパラドックス

なぜ私たちは、終わりのないゲームを愛するのか

完璧さを追い求めるテニスプレイヤーたちの心理学的考察

狂気か、それとも探求か？



外部からの視点

「狂っている」
「ただの苦行」
「なぜ自ら困難な道を選ぶのか」



内部の現実

自分の現在地をリアルタイムで
測る究極のテスト。

テニスプレイヤーは、決して「楽な道」を選ぶ人種ではない。

絶え間ないフィードバックの4象限

技術的



理想通りに動かない
サーブのモーション

SET 1	1	2	-
SET 2	1	0	3 1
SET 3	2	0	2 2

簡単に勝てるはずが、
フルセットの末に敗れる試合

戦術的



決まるはずの短いチャンス
ボールでの痛恨のミス

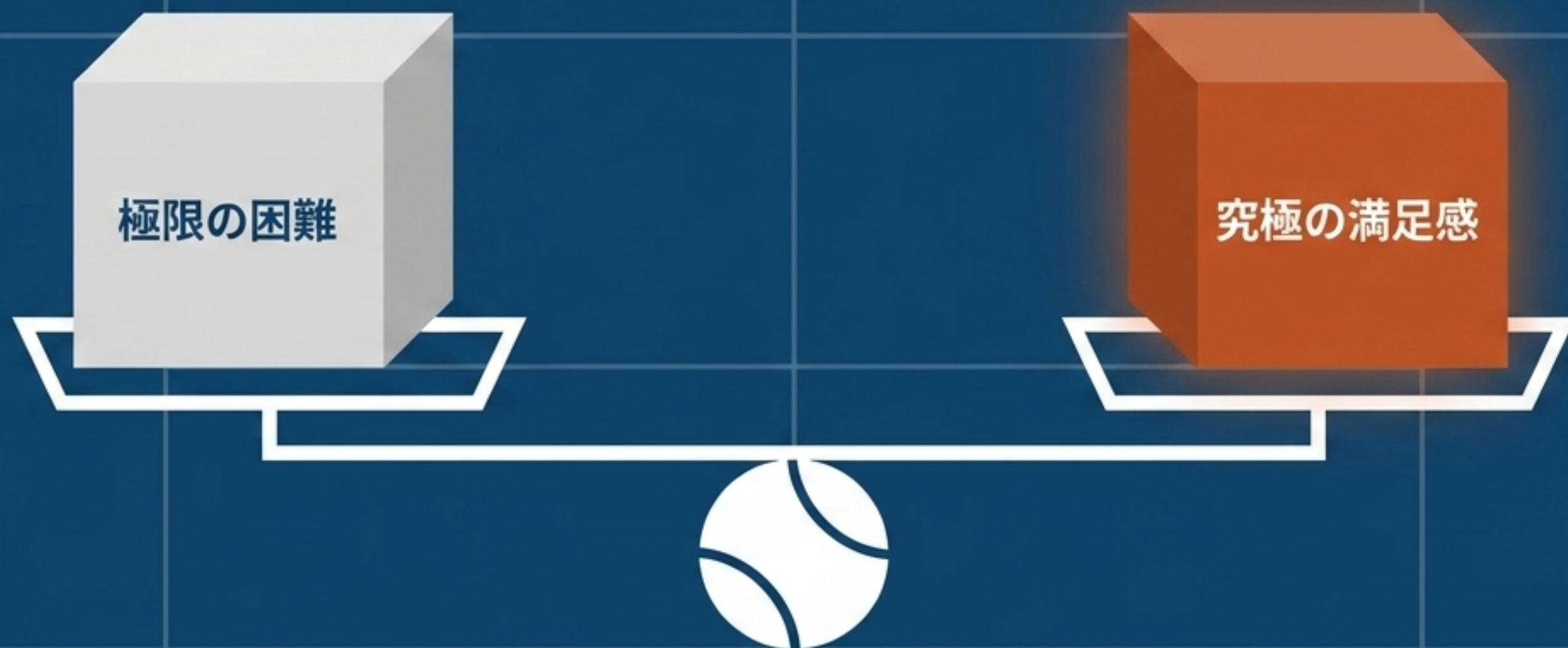


常に解決策を封じてくる、
天敵のような対戦相手

内面的

外面的

困難と満足の等式



「テニスは非常に難しいからこそ、信じられないほどの満足感をもたらす。
どちらか一方だけを手に入れることはできない。」

その壁が最初から重く立ちはだかっていなければ、それを乗り越えた時の「本当の重み」を感じることはできない。

3時間の死闘がもたらす真価

3:00:00

身体的消耗と
精神的摩擦

SURFACE LEVEL

DEEP LEVEL



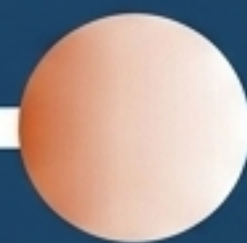
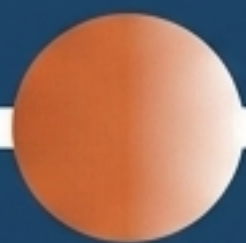
自己の発見

3時間の死闘というプロセスが存在しなければ、その果てに「自分が何者であるか」を知ることは決してできない

報酬のスペクトラム

突然の開眼

昇格の招待

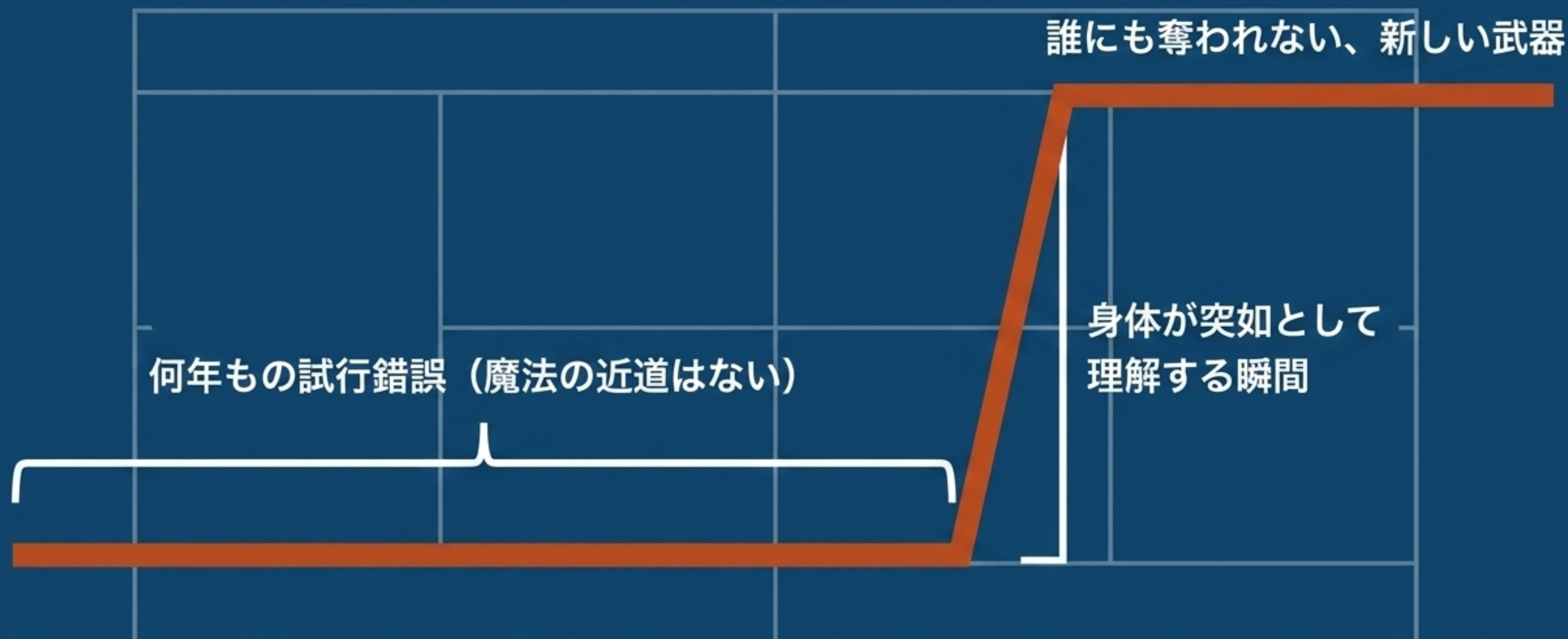


宿敵の攻略

誇り高き敗北

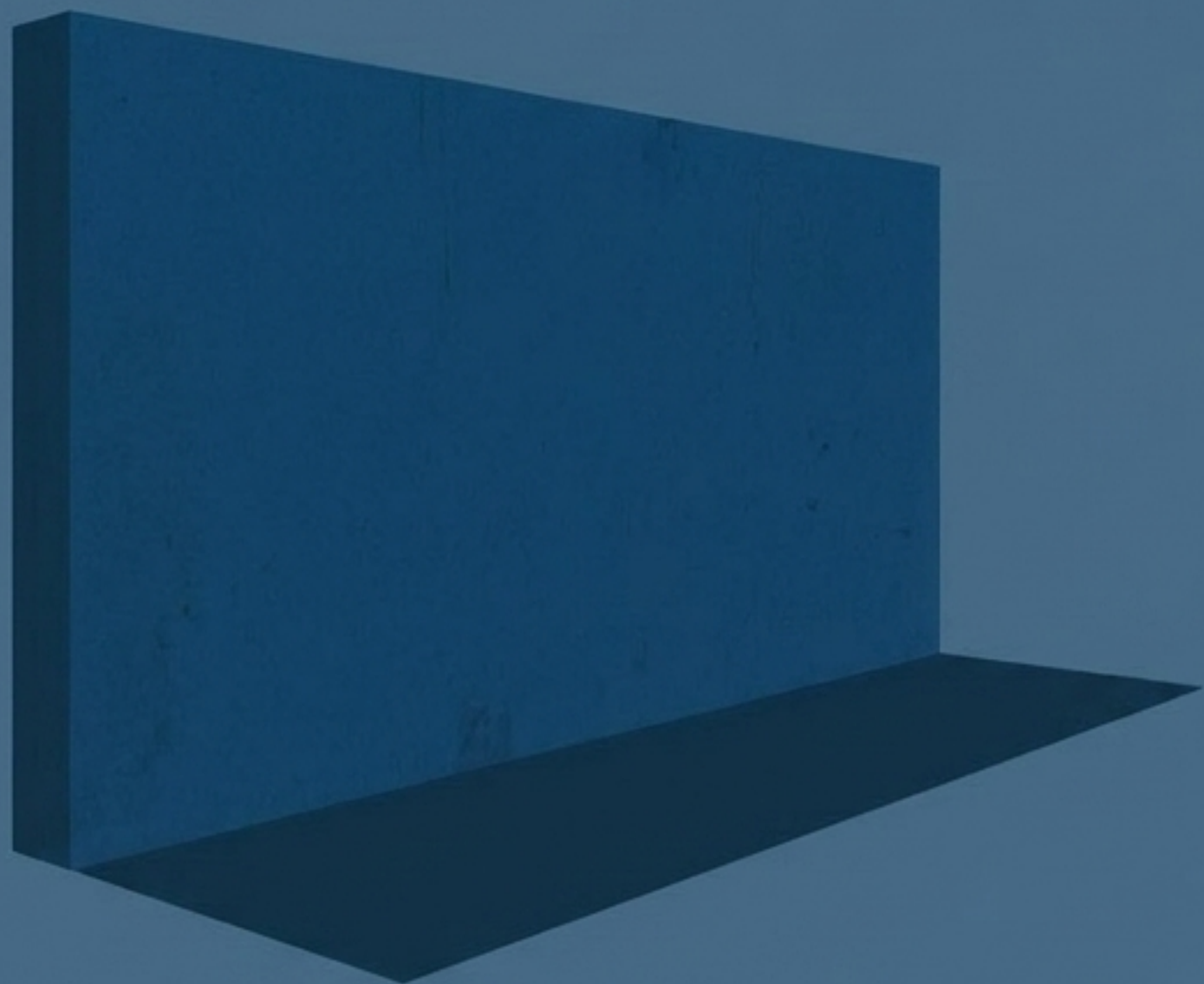
テニスが与えてくれるこれらの瞬間は、すべて自らの手で勝ち取ったものである。

第1の報酬：突然の開眼

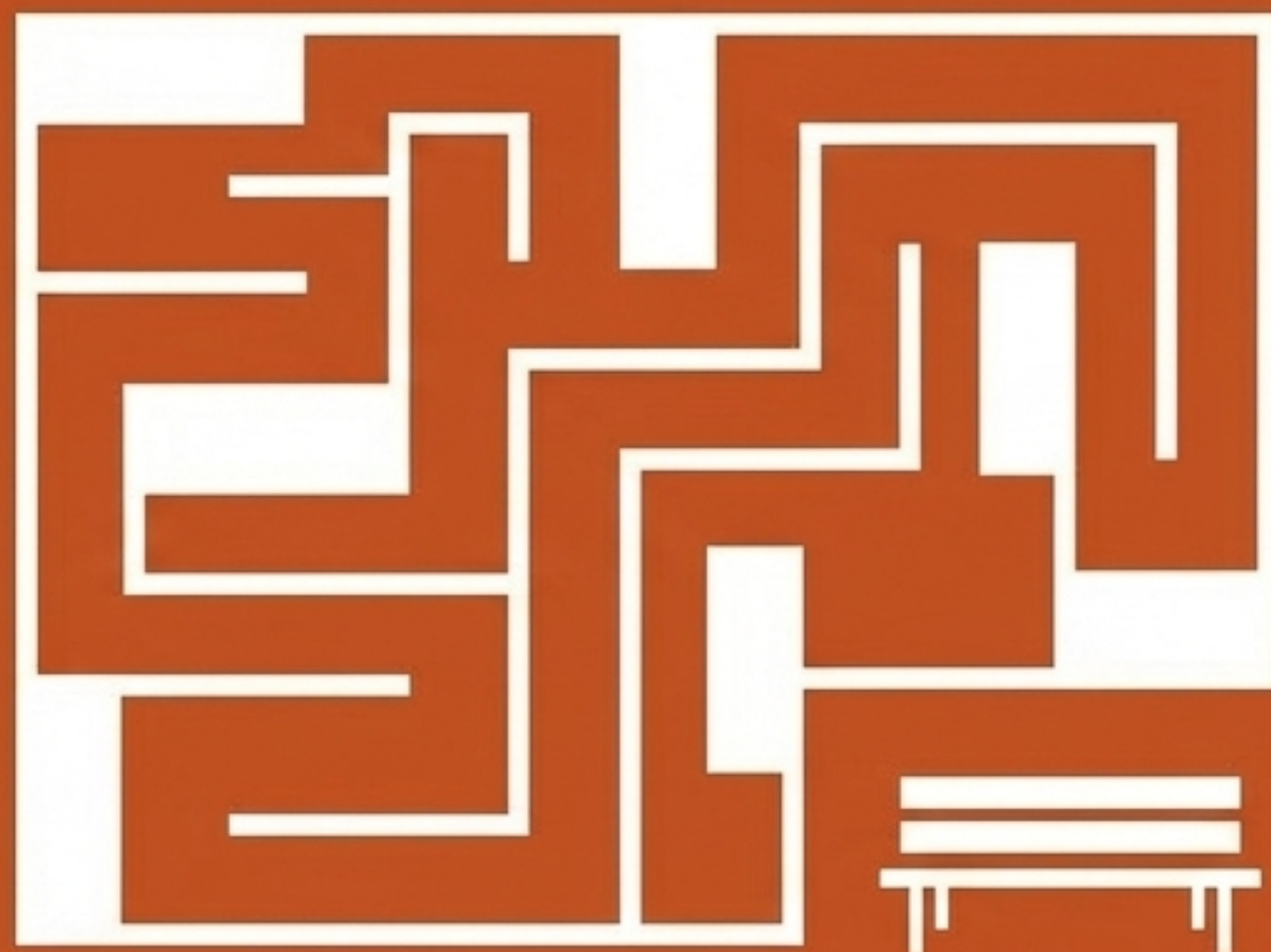


努力を長く続けた結果としてのみ訪れる、技術的ブレイクスルー。

第2の報酬：宿敵の攻略



何年、あるいは10年以上負け続けた歴史



チェンジオーバーでの静かな確信

ベンチに座った瞬間、自分がもう劣勢ではないことに気づく。
相手のゲームをついに解読したことを悟り、それを実行に移す瞬間。

第3の報酬：昇格の招待



長きにわたる献身が、周囲の尊敬という形で報われる瞬間。

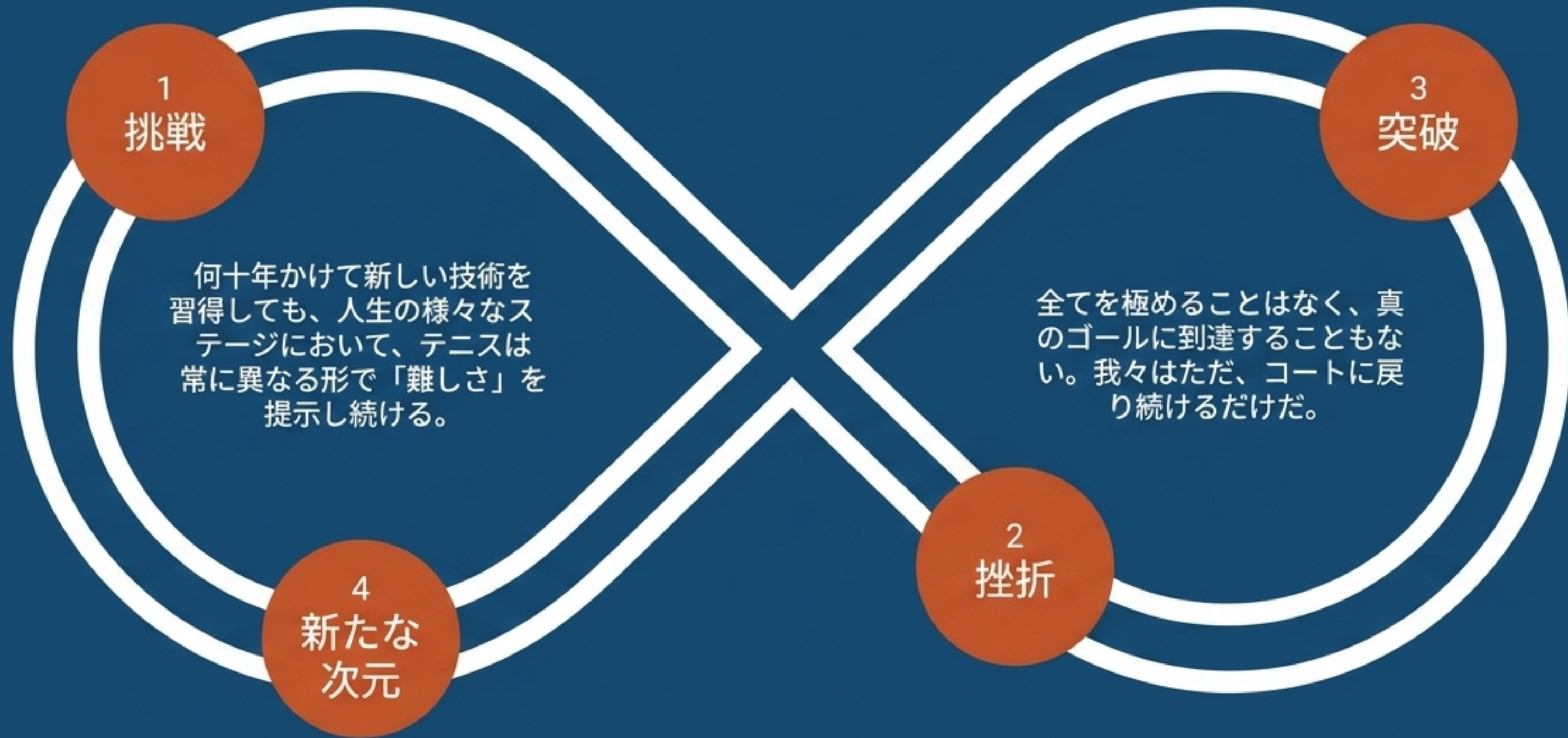
第4の報酬：誇り高き敗北



全てのポイントに集中し、全力を尽くした末の、残酷で僅差の敗北。

今週、あなたの人生に関わる他の誰一人として、これほどの激しさと努力の境地に達することはない。あなただけが、その誇りを胸にコートを後にする。

終わりのないループ



永遠に未完成であること。
「それは欠陥ではない。贈り物である。」

テニスが難しいのは、それが人生そのものだからだ。コートに戻ろう。